

「どろどろ坂」見聞記

小学校の校庭の西に「どろどろ坂」という路がありました。その坂は、揚小路の板倉寛さん宅の前より農協まで二百米余り、当時の小学校の校庭南をまっすぐのびる便利な路でした。周りは畑と広々とした田んぼ。忠魂碑や二宮尊徳の像を右手に、荷車や猫車はドロドロドロと楽に降りることができました。

なぜ こんな坂があったのでしょうか。

——丘の上の 弓原山 高勝寺——

塩冶通れば高勝寺馬場に 松に「ていか」の花が咲く
「ていか」の花とはソリヤまた嘘だ「ていかかずら」
の花が咲く。ヤンハトナイ ヤンハトナイ（出雲市誌）

広い高勝寺の境内では、村の若者衆が集まり盆踊りや有名力士の奉納相撲が盛んに行われ、高勝寺の馬場、角田往還は大変賑わっていました。

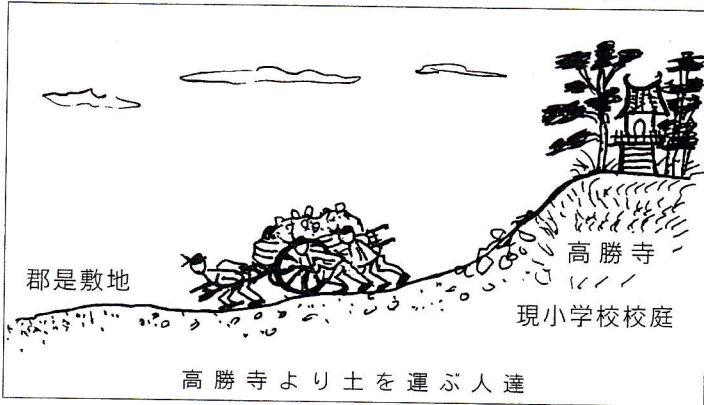
当時今の小学校のある場所は全部小高い丘陵地で、高勝寺はその丘の上に建つ境内二百坪。寺領八石七斗の松江藩直轄の寺でした。天保年間（一八三五）には、教育の祖「伊藤宜堂」が最初に塾を開いたのも、この寺です。今でも「裏門」という屋号の家があります。（成相さん）これは高勝寺の裏門の位置にあったからです。

——郡是製絲工場が 塩冶に来る——

簸川平野は、養蚕の盛んな所です。大正十二年京都より郡是今市工場が塩冶に来ることになり、高西の低い敷地を埋め立てるために、高勝寺の丘陵が選ばれました。郷倉往還（今の小学校と公民館の間の道）は連日連夜トラックや大八車がたくさん土を運びました。

墓地移転については、当時は土葬だったので、幼児のカチューシャ（髪飾り）が掘り出され、親の涙を誘った話も伝えられています。

この時それまでであった道が「どろどろ坂」として残りました。



——軍靴が行く「どろどろ坂」——

平地となった土地は、田畑として利用されて来ました。小学校が建ち、坂の南側に校舎が増築されました（一九三九）が、間もなく軍隊の浜田部隊がこの校舎に移転して来ました。（一九四一）旧家は将校の宿となり軍刀を下げた軍人が「どろどろ坂」を闊歩しました。終戦の頃には兵隊や軍属が隠匿物資を運ぶ姿をこの坂でよく見かけました。

——わずか二米で 行き止まりとなった坂道——

平和が甦り、世相もすっかり変わりました。現在の校舎建築のため、坂は削られ、フェンスが張られ当時の面影は、もうどこにもありません。

古老曰く「どろどろ坂」は日本歴史の、小さな変遷だと——

今語らなければ、消えてしまいそうな話ですが、この地に生きた人達の足跡として次の世代へ伝えて行きたいと思います。（文責 板倉）

◆編集部だより

今回の「えんや物語」興味をもって読んで戴けたでしょうか。

塩冶に伝わる民芸品「浄音寺うちわ」の話と、むかし塩冶小学校の校庭の西にあった「どろどろ坂」にまつわる話を取り上げてみました。

さて、今年度文化部では、

一、えんや物語の発行 年四回

二、塩冶クラブで企画作成中の塩冶マップへの参画等を予定しています。

「えんや物語」では、

* 今書き留めておかねば忘れ去られてしまうようなこと、

* 子どもたちや、次の世代に伝えたいこと、

* まだ見つからない塩冶のDNA探し

等を中心に現地に出かけ、話を聞いて、取材した話題を編集しようと考えています。次号では「塩冶の水」をテーマに取り上げたいと考えています。「塩冶の水」にかかわる話を聞かせてください。

また、秋には「えんや物語」を手に塩冶ウォークを企画していますので一緒に水の途をたどりましょう。